

グリーティング

その日はいつも通りブラシにハミガキをつけて口に入れました。毎朝の習慣ですが、違うのは初めて買ったいつもと違うハミガキです。「あっ!! この味!!」と思うや、半世紀以上前の出来事が蘇りました。

私は原爆投下の4年後に広島で生まれました。5歳くらいだったと思いますが、原っぱで遊んでいると、米兵が2人微笑みながら近づいてきます。怖かったのでしょう。友達の手をぎゅっと握っていました。米兵は親しそうに何か言いますが、もちろん何もわからず、オロオロドギマギするばかりです。反応のない子たちにあきらめて、立ち去ろうとした時に、米兵の一人が小さな箱を手のひらにのせてくれました。手を振りながら遠ざかる、すりと伸びた長い脚が記憶に残っています。急いで家に帰って母に話すとひどく叱られました。泣きながら2階に上がり、小さな箱を開けると、甘い匂いがして思わずひとつ口に入れました。生まれて初めての味、スーッと不思議なおいしさ……アメリカのガムでした。お菓子のない頃です。その時の珍しい外国の味が私の記憶に入り込んでいたのです。まさか近くのマーケットで買ったハミガキで、その味と巡り合うとは……。 S.K



技工情報

前回は、支台歯の色調の観点から見たフレームの選択についてご説明しましたが、今回はそれぞれのフレーム材料の特質より適した(必要なクリアランス)についてご説明します。

◎クリアランスを考慮した補綴部位別の材料(マテリアル)の選択

●補綴部位が、上顎前歯部の場合 レイヤリング法において

どの種類の材料を用いるとしてもフレーム強度及び色調再現性を考慮すると、唇側面で1.5mm程度、切縁で2mm程度必要となります。(つまり、このスペースが、陶材の築盛スペースということになります)又、この築盛スペースの確保の為、フレームが薄くすると強度が低下、築盛スペースが少なくなると、色調再現性が低下しています。

ただし、審美性のある程度必要とされない機能面重視の口蓋側では上記のスペース程度でも可能になります。

- 1)e.max 0.7mm
- 2)ジルコニア 0.5mm
- 3)金属 0.3mm

程度の薄さまですることが可能になります。(ベニアタイプ)この場合は、口蓋部の厚みは上記の厚みとなり、陶材は築盛されません。

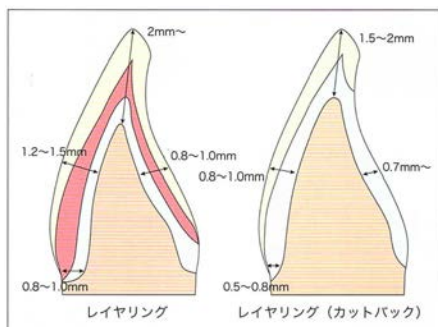


図17 上顎前歯部に対してe.maxを用いて補綴処理を行う際に必要なフレーム厚みとクリアランス

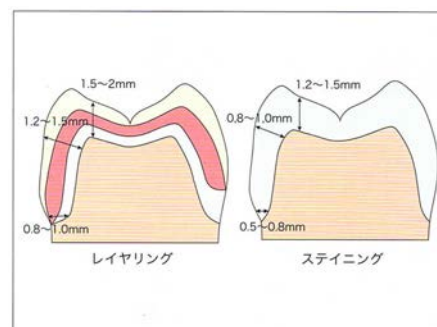


図18 白歯部に対してe.maxを用いて補綴処理を行う際に必要なフレーム厚みとクリアランス